歩行車（CCTA コード　１２０６０６）

ウォーキーＳ３　取扱説明書

このたびは、ウォーキーＳ３をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には必ず「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。
また「取扱説明書」は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。
使用環境や使用者の身体状況が変化した際には再度お読みください。

目　次

安全にお使いいただくために・・・１
歩行の際について・・・・・・・・２
座る際について・・・・・・・・・３
各部の名称・・・・・・・・・・・４
組み立て方
・ハンドルの組み立て方法・・・・５
・背ベルトの取り付け方法・・・・６
・ステッキホルダー取り付け方法・６
・ハンドルの高さを調節する・・・７
・シートの高さを調節する・・・・７
・フレームの広げ方・・・・・・・８
・フレームの折りたたみ方・・・・８
使い方
・ブレーキの操作方法・・・・・・９
・ブレーキの調整方法・・・・・１０
・段差を乗り越える・・・・・・１１
日常のお手入れ・・・・・・１２/１３
仕様・・・・・・・・・・・・・・１４

ラック ヘルスケア株式会社

コード No.2014.07

安全にお使いいただくために

使用上の注意

●ウォーキーＳ３は使用者自身の歩行を補助する為のものです。用途以外の使用はしないでください。
●自力で歩行できない方は使用しないでください。
●ハンドル操作、及びブレーキ操作ができない方は使用しないでください。
●歩行の際は、必ずハンドルグリップを持って使用してください。
●使用者に合ったハンドルの高さに調節してからご使用ください。
●使用前には必ずブレーキ及びパーキングブレーキの効き具合を確認してからご使用ください。
●砂、泥、水たまりなどのある場所での使用は故障の原因となりますのでおやめください。
●交通量の多いところ、混雑しているところ、また夜間の使用はできるだけ避けてください。
●踏切などの溝を越える際は、前輪キャスターを挟み込まないように前輪を上げて操作しください。
●保管の際は雨ざらしにせず、直射日光を避け、高温にならないところに保管してください。

⚠ 警告　この表示項目を守らずに誤った取扱をすると重大な事故につながり、使用者が重傷を負う恐れがあります。

⚠ 注意　この表示項目を守らずに誤った取扱をすると使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

1.歩行の際について

⚠ 警告

●かご以外のところに荷物を載せたり、ハンドルに吊り下げますと、バランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対にしないでください。

●かごに乳幼児を乗せたり、座面に人を乗せたまま歩行しないでください。バランスを崩して転倒し、ケガをする恐れがあります。

●雨や雪、風の強い日、凍結している道、滑りやすい場所でのご使用はバランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対に避けてください。

●座面に立ち上がったり、踏み台代わりにご使用になりますと非常に危険ですので絶対にしないで下さい。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●傘をさしながら、または片手に荷物を持ちながら、片手ハンドルでの歩行はしないで下さい。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●背ベルトを持って立ち上がったり、持ったまま使用しないで下さい。過度な力が繰り返し加わると、亀裂などに発展しベルト破断による事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

●小さな凸凹や段差のある路面を歩行する際は、前方に転倒しないように前輪を上げて操作してください。

●使用中に身体を乗り出すなどして、安全性を損なうことのないように操作して下さい。

●ブレーキを握った状態、ならびにブレーキロックをした状態のままで歩行しますと、タイヤが異常にすり減って危険です。このようなご使用はしないでください。

2.座る際について

⚠ 警告

●座る際は、ブレーキが完全にロックされた状態で車輪が動かないことを確認してください。車輪が動くとバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

●ブレーキがロックされた状態でも背ベルトに寄りかかるような座り方をしないでください。車輪が滑って転倒する恐れがあります。

●坂道で腰をかけると大変危険です。バランスを崩し転倒する恐れがありますので、決してしないでください。

●座面に座った時、本体を動かさないようにしてください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。

●ブレーキロックが効いた状態でも、ハンドルの片側に寄りかかって座ると車輪が滑って転倒する可能性があります。両手でハンドルをしっかり持ち、中央にお座りください。

●立ち上がる際にハンドルの片方だけに体重をかけると転倒する恐れがあります。
両方のハンドルにバランスよく体重をかけ、ゆっくり立ち上がってください。

3.保管・搬送の際について

⚠ 警告

●背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

●背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。梱包する際は必ず背ベルトを取り外してください。

各部の名称

ハンドルグリップ

背ベルト

ブレーキ

パーキングブレーキレバー

ハンドル高さ調節ノブ

座面シート

前輪キャスター

後輪キャスター
（ブレーキ部）

かご

●付属品

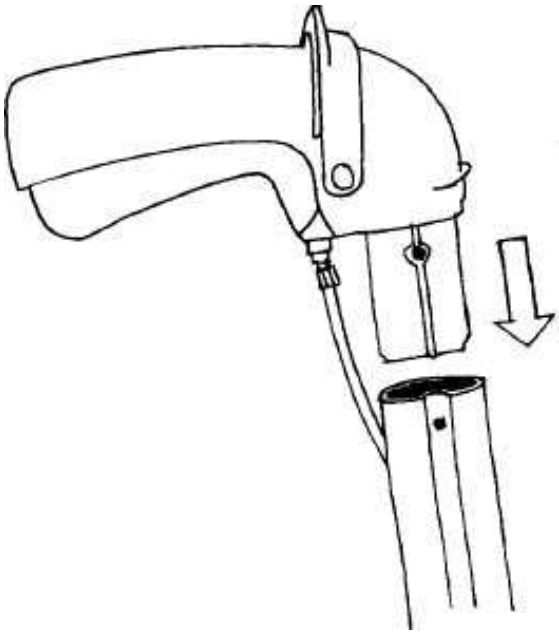
- 背ベルト×1
- 六角ボルト×2
- ワッシャー×2
- スリーブ×2

＊固定用工具は付属されておりません

かご

ハンドルの組み立て方法

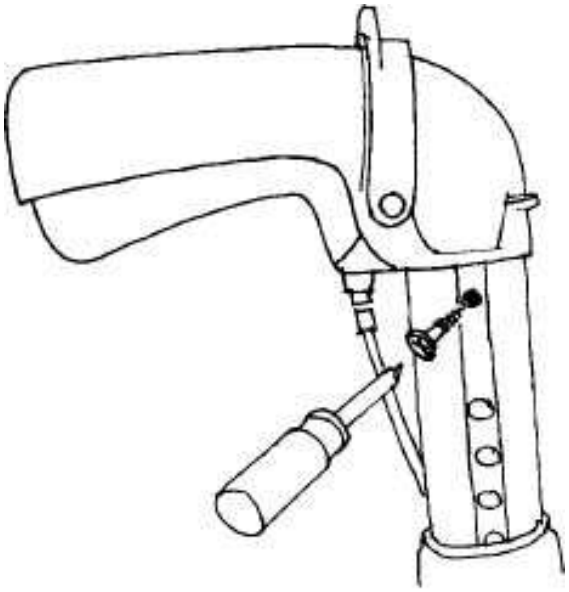
図 1



① ウォーキーＳ３を箱から取り出してください。

② ハンドルを取り出し、図１のようにハンドルフレームに差し込んでください。

図 2



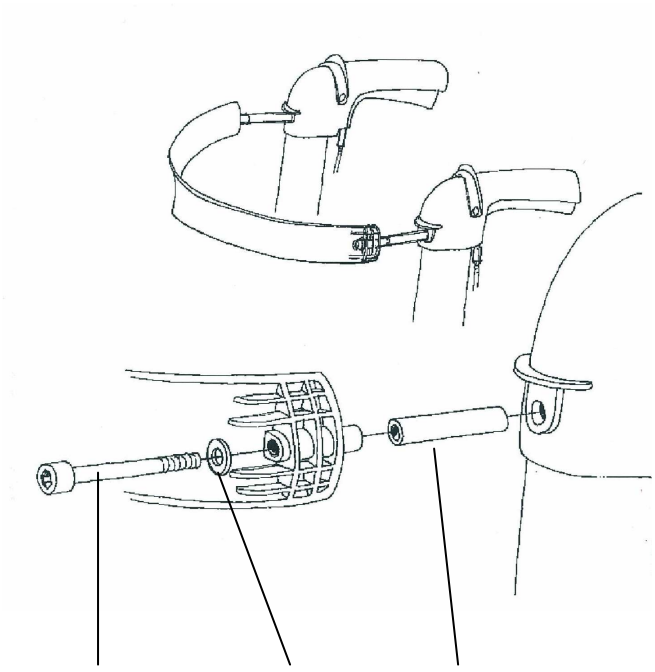
③ ブレーキワイヤーをハンドルフレームの外側に通し、ハンドルを図２の向きに差し込んでください。

④ 付属のハンドル固定ねじを使用し、ハンドルを固定してください。

後 ⟶ 前

背ベルトの取り付け方法

図 3



六角ボルト　ワッシャー　スリーブ

① 背ベルトを付属の袋から取り出します。

② 付属の六角ボルトを５mmの六角レンチを使用し図３のように取り付けます。
＊工具は付属されておりません

⚠注意　取り付け後はしっかり固定されていることを必ず確認してください。

⚠注意　背ベルトの向きは、ボルトが外側に向くよう設定してください。

ステッキホルダー取り付け方法

＊ステッキホルダーはオプションパーツです

図 4

図 4-1

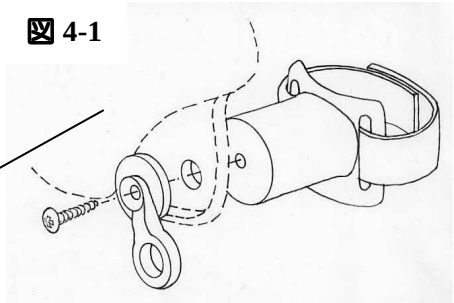


図 4-2

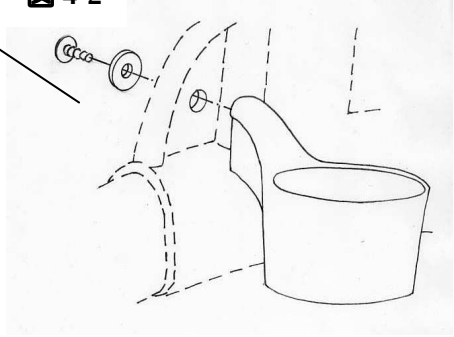
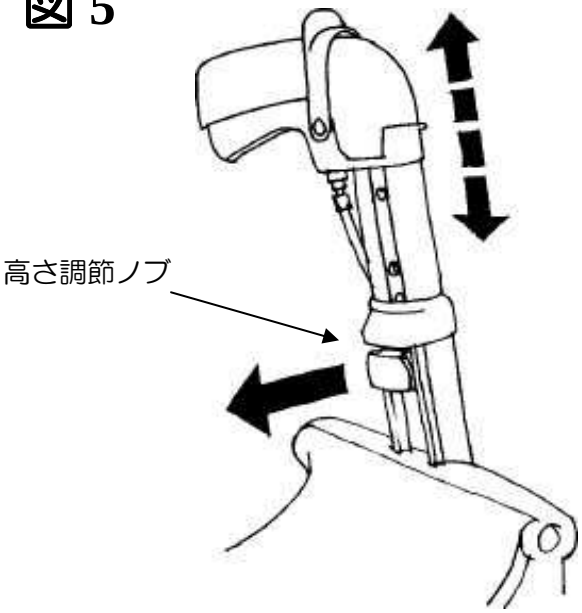


図４-１及び２のようにステッキホルダーを固定します。

＊使用する工具：プラスドライバー

ハンドルの高さ調節

図 5



オレンジ色の高さ調節ノブを矢印の方向へ引き、ハンドルをスライドさせて高さを調節します。カチッと音がすれば、固定された状態となります。

⚠注意　調節後はしっかり固定されていることを必ず確認してください。

⚠注意　左右同じ高さに設定してご使用ください。

～ハンドル高さ調節の目安～
肩をリラックスした状態でウォーキーＳ３の後ろに立ち、手首の位置にハンドル高さを合わせるのが調節の目安となります。

＊ハンドル及びシートの高さは医師や理学療法士、作業療法士等の専門職の指示に従い調節することをおすすめします。

シートの高さ調節

図 6

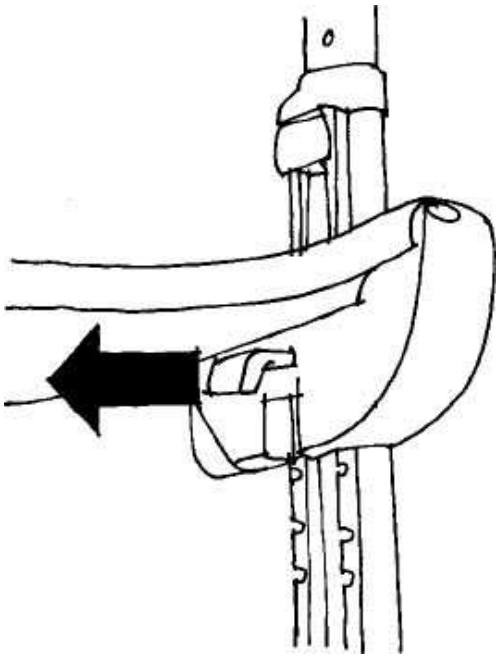


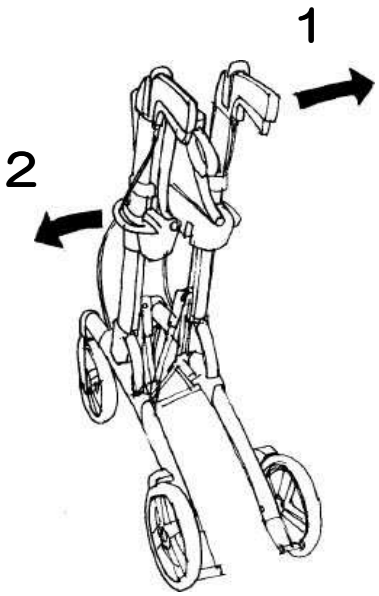
図６のように、シート下にあるオレンジの固定ノブを矢印の方向へ引きながら、左右片側ずつシートをスライドさせてシートの高さを調節してください。
カチッと音がすれば、シートが固定された状態となります。

⚠注意　調節後はしっかり固定されていることを必ず確認してください。

⚠注意　シートは必ず左右同じ高さに調節してください。

フレームの広げ方

図 7

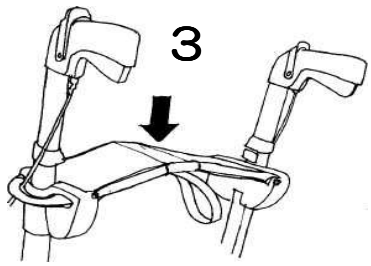


① 図７のように、１の矢印方向へ本体を数センチそっと傾けてください。

②もう片側のハンドルを２の矢印方向へ押し広げてください。ばねの力で簡単に開くことができます。

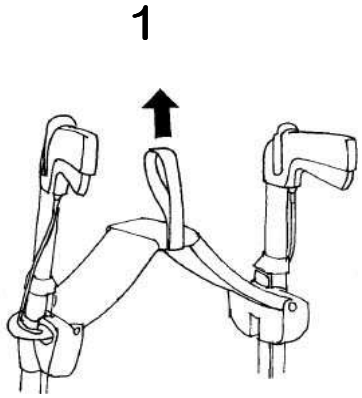
③次に、本体フレームをロックするため、図８のようにシートの真ん中を矢印方向へ押し下げてください。

図 8



フレームの折りたたみ方

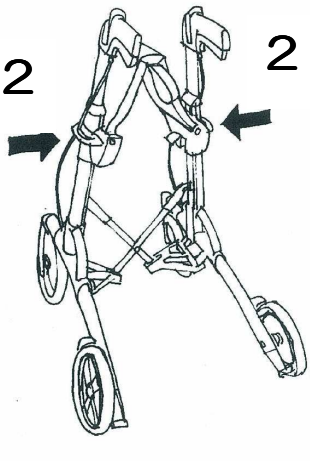
図 9



⚠注意　折りたたむ際は、必ずかごを取り外してください。

① 図９のようにシート中央のオレンジのストラップを引き上げてください。

図 10

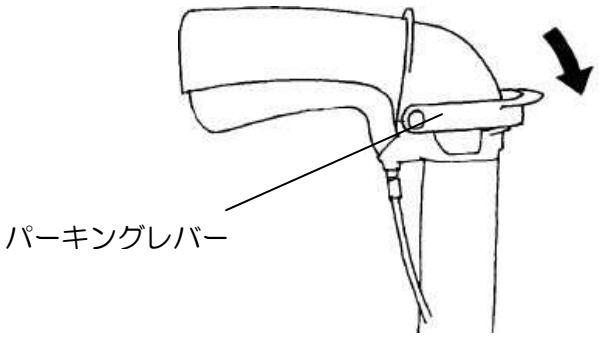


② 次に、図１０のようにフレームの両側から折りたたむように押してください。

ブレーキの掛け方

●パーキングブレーキのかけ方

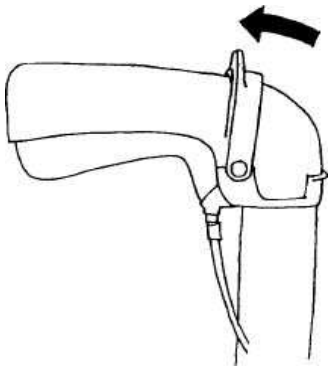
図 11



① 図１１のようにオレンジ色のパーキングレバーを押し下げると、後輪が固定されます。

> ⚠注意　シートに座る際は、パーキングブレーキをかけ、腰掛ける前に必ず後輪が固定されているか確認してください。

図 12



② 固定を解除するときは、図１２のようにパーキングレバーを上向きに引き戻してください。

> ⚠注意　パーキングレバーは“カチッ”と音がするまで戻してください。

●歩行時のブレーキのかけ方

図 13

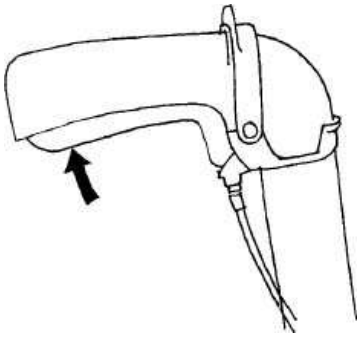
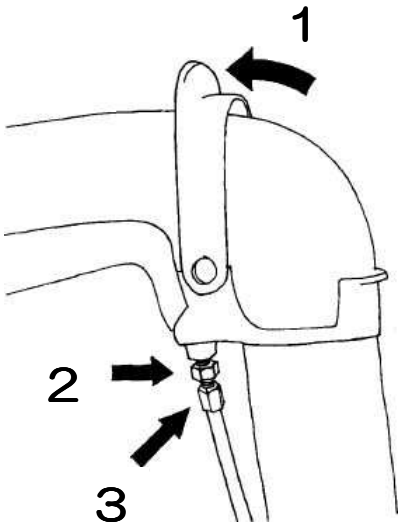


図１３のように、ハンドル下部のブレーキ部を握るとブレーキがかかります。

ブレーキの調整方法

図 14

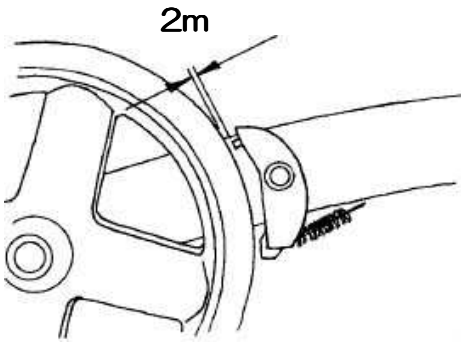


① パーキングブレーキレバーを上に戻し、
パーキングブレーキを解除します。

② 図１４の２のネジを緩めてください。

③図１４の３のネジを緩める(左に回す)と
ブレーキが強くかかるようになり、
ネジを締める(右に回す)と弱くなります。

図 15



④ 図１５のように、ブレーキパッドと
ワイヤーの間の距離を確認してください。
距離は 2mm 以内となるように調整して
ください。

⑤ 調整後、２のネジを締め固定してください。

⚠注意　調整後は必ずブレーキ及びパーキング
ブレーキの効き具合を確認してください。

⚠注意　ブレーキを強く調整しすぎると、
パーキングブレーキがかからなくなることがあ
りますので注意してください。

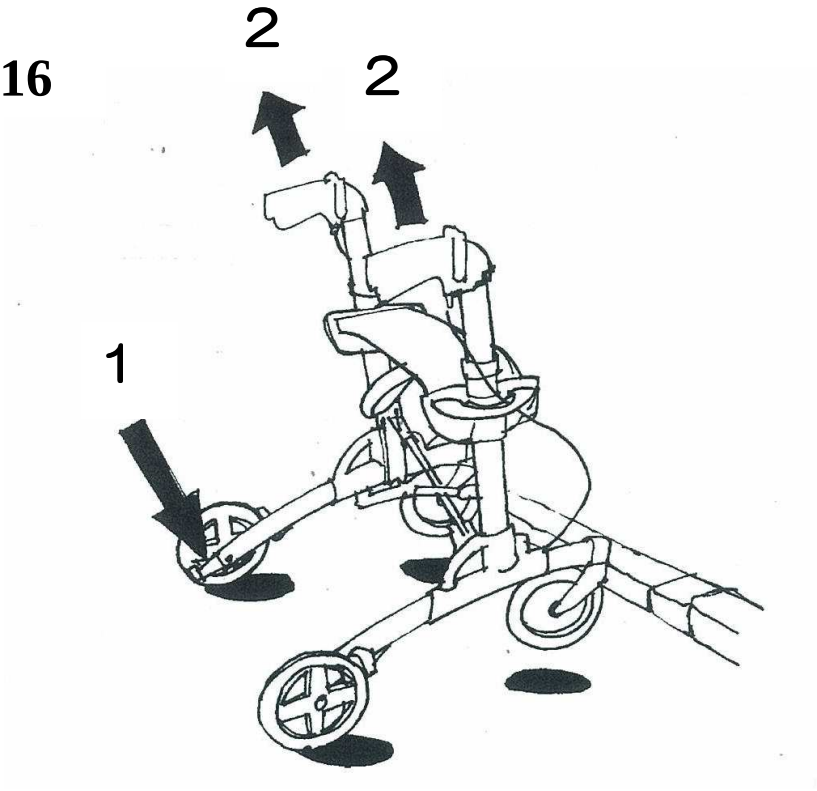
＊ ブレーキ調整が不可能な場合やご不明な場合には、販売店もしくは弊社まで
ご連絡ください。

連絡先：ラックヘルスケア株式会社　大阪　０６－６２４４－０６３６
東京　０３－５４１９－８０５０
九州　０９６－３４０－８１０１

段差を乗り越える

ウォーキーＳ３は平坦でない路面も走行しやすい構造になっていますが、更に大きい段差を乗り越える場合は、矢印１のティッピングバーを足で押さえ、ハンドルレバーを矢印２の方向(体側)に引き上げて前輪を持ち上げてください。

図 16



⚠注意　段差を越える際は、シートを持ち上げないでください。
フレームが折りたたまれ危険です！

日常のお手入れ

●メンテナンス

長くご愛用いただけるよう、定期的なメンテナンスをお勧めします。

●清掃について

車輪、プラスチック部品、金属部分の汚れは、水を含ませてよくしぼった布でふき取ってください。ひどい汚れは薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いた後、水を含ませてよくしぼった布で数回拭きとって下さい。

> ⚠注意　本体の清掃に中性洗剤以外のものを使用しないで下さい。
> 部品の変質、劣化の原因になります。

> ⚠注意　ブレーキパッドとキャスターの間に泥などの汚れが付着していないか確認してください。泥や汚れによりブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

＊高圧洗浄や家庭用ホースを使っての洗浄もお勧めです。洗浄後は拭き仕上げをしてください。

●ブレーキワイヤーへの注油

清掃後、ハンドル部と後輪部のブレーキワイヤーに注油してください。

1. ブレーキを握り内部のネジを露出させて、ブレーキワイヤー(図１７矢印部)に 2～3 滴　注油してください。
2. 後輪部バネ内のブレーキワイヤー(図１８矢印部)にも注油してください。

図 17

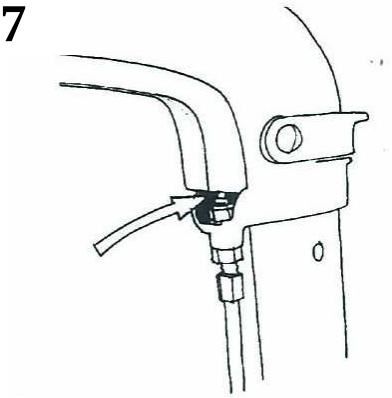
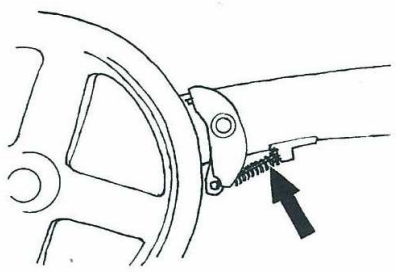


図 18



●不具合のチェック

・本体を左右に操作し、キャスターおよびフロントフォークが円滑に回転していることを確認してください。

・キャスターおよびフロントフォークの付属ネジが適切に締められてがたつきがないか確認してください。

・ブレーキパッドとキャスターの間に泥や汚れが付着していないか確認してください。

●ブレーキがきかなくなったら・・・

・ブレーキワイヤーがブレーキハンドルおよびブレーキアームから外れていないか確認してください。

・ブレーキをかけた際に、ブレーキアームおよびブレーキパッドが正しく作動しているか、また、タイヤとブレーキパッドの間に汚れが付着していないか確認してください。

・ ブレーキワイヤーがブレーキハンドルおよびブレーキアームに固定されているか確認してください。

・ブレーキバッド部のバネが破損していないか確認してください。

・ ブレーキをかけたときにブレーキパッドがタイヤを押し付けているか確認してください。

⚠ 注意

製品の安全性を維持する為にも決して分解はしないで下さい。

⚠ 注意

タイヤの磨耗、ネジ類のゆるみ、部品の破損および作動不良がないかを適時点検し、必要に応じて交換をして下さい。

⚠ 警告

製品の破損や異常を発見した場合は、ただちに使用を中止しお買い求め頂いた販売店もしくは弊社までご連絡ください。
そのまま使用しますと重大な事故につながる恐れがあります。

連絡先：ラックヘルスケア株式会社　大阪　０６－６２４４－０６３６
東京　０３－５４１９－８０５０
熊本　０９６－３４０－８１０１

仕　様

全幅	590 ㎜
全長	738 ㎜
シート高	460～600 ㎜
ハンドル高調整域	760～1000 ㎜
本体重量	7.5 ㎏
耐荷重	約 140 ㎏

LAC

ラック ヘルスケア株式会社

大阪　〒542-0081
大阪市中央区南船場 2-10-2
TEL：06-6244-0636　FAX：06-6244-0836
東京　〒108-0014
東京都港区芝 3-43-16 KDX 三田ビル 11F
TEL：03-5419-8050　FAX：03-5419-8051
九州　〒862-0924
熊本市中央区帯山 2-1-23 パークヒル帯山
TEL：096-340-8101　FAX：096-340-8102